

お宮の杜

馬見岡綿向神社だより
三十三社だより

第 33 号

発行者 官司社信之
日野町村井
発行 不定期

急 告

今年の春季例大祭

日野祭は

「居祭り」となる

—七十五年ぶり—

今年の年明けより新型コロナウイルスが流行しはじめ、今や世界中に広がり、我が国においても二千五百人を越える方が感染し、七十人以上の方が亡くなられたなど大変な社会問題となっております。未だに感染者は増え続け、何時になったら終息するかはまだまだ見えないところでございます。

その様な状況下に於いて、観衆が集まる催しや感染リスクの高い行事は軒並み中止や延期を余儀なくされています。神社の祭礼も例外ではありません。そこで、氏子さんの御代表である各字の総代様と慎重に審議し、感染拡大防止に努めるため、今年の春の大祭である日野祭は「居祭り」とすることに決定しました。

「居祭り」とは神社での祭儀のみ斎行し、神様が御神輿などに乗ってお出にならないお祭りのことです。従いまして、例年のような神子と芝田楽の行列や神輿や神幣、その他獅子太鼓や威

六年（一七五六年）に日野の八割を焼いた大火で、またその後、字同士の紛争が原因で十年間居祭りとなった記録もあります。今回は、今まで予期せぬ疫病の流行が原因で七十五年ぶりの居祭りとなります。新型コロナウイルスに屈してやめるのではなく、立ち向かい皆で克服するための処置です。

日野祭の

ストーリー

綿向神社にお祀りする神様は、今から一、五五〇年程前に出雲国からお越しになった天穂日命（あめのほひのみこと）であり、先ず綿向山にお鎮まりになりました。この神様を「二〇〇年程前に現在の地に遷し、またそのお子様天夷鳥命（あめのひなどりのみこと）とまたそのお子様の武三熊大人命（たけみくまうしのみこと）三柱の神様をお祀りしていただきます。出雲の国の神様をこの地にお祀りするのは、この神様を祖先神と崇めていた人々が、日野の地に移り住み綿向山に祀り仰ぎ尊びながら開拓し、その子

綿向神社にお祀りする神様は、今から一、五五〇年程前に出雲国からお越しになった天穂日命（あめのほひのみこと）であり、先ず綿向山にお鎮まりになりました。この神様を「二〇〇年程前に現在の地に遷し、またそのお子様天夷鳥命（あめのひなどりのみこと）とまたそのお子様の武三熊大人命（たけみくまうしのみこと）三柱の神様をお祀りしていただきます。出雲の国の神様をこの地にお祀りするのは、この神様を祖先神と崇めていた人々が、日野の地に移り住み綿向山に祀り仰ぎ尊びながら開拓し、その子



綿向大神を案内し、渡御に出発する神子

新型コロナウイルス感染症流行鎮静祈願を勤めています。
世界中に広がり行く新型コロナウイルスを奪い、また東京オリンピックの延期を始め、経済状況の悪化など、世界に大きな損失を与えております。このような脅威に人類の知恵と力を尽くして一日も早く克服できるように、綿向神社を始め、各字の春祭に併せて鎮静祈願を執り行っています。人知の及ぶところは皆が努力し、及ばぬところは祈りをもって心に安らぎを。皆様も心を込めてお祈り下さい。

今年の日野祭の祭儀等一覧

祭典	○	五月二日宵祭（西之宮） 五月三日本祭 五月四日後宴祭
神子	×	神調社（芝田楽）のお渡りはありません
神輿渡御	×	渡御も飾り付けもありません
曳山巡行	×	巡行も曳出しもありません（宵山スタンプラリーも×）
嶽祭り	○	四月二十日斎行
太神楽	×	五月四日
露店	×	

あとがき

誠に心の重い事をお知らせしなければならぬ号となりました。来年の賑やかな日野祭を思い浮かべながら、前向きに進みましょう。